

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	13名	(依頼数)
地域アンケート回答数	3名		

※事業所記入

事業所番号	3890700028
事業所名	グループホーム龍星
(ユニット名)	第1ユニット
記入者(管理者)	
氏名	丸本真由美
自己評価作成日	平成29年 8月 18日

<p>【事業所理念】 入居者の残存能力を活かしその人らしい生活を支援する 入居者が生きがいをもって生活出来るよう計画する 一人ひとりを尊重し、楽しく生活できるように家庭としての環境を整える</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①「あったかいホームを作る」にあたって、職員が「行ってきます」「ただいま」と言うと、「行ってらっしゃい」「おかえり」を言っていたことが多くなり、職員の祖父母・両親のような関わりが少しずつ出来ており、温かいホームになってきている。 ②「地域交流の促進を図る」にあたって、行事として地域交流会を行い、婦人会の人と一緒に食事作りや笑いヨガを行った。 夜間想定避難訓練で利用者全員の避難誘導を、地域の人・消防団に協力していただき、災害時に協力して頂く大切さを実感しました。 職員一人ひとりがホームを清潔に保つことに気をつけて、朝と夕に限らず、毎食後もフロアの掃き掃除・拭き掃除を行っている。そして、手のあいた職員も、気になっている所の掃除を自主的におこなっている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 富士山・臥龍山荘に近い自然豊かな場所にある事業所の前には肱川が流れており、毎年、大洲水天宮花火が恒例行事となっている。管理者はじめ職員は利用者本位に過ごしてほしいと願い、できることはしてもらうという方針で支援している。利用者はそれぞれに楽しみや役割をもちのびのびと過ごすことができおり、しっかり反映されている。管理者と職員は良好な信頼関係が築かれ、同じ方向性のもと利用者の支援に取り組んでいる。母体が診療所であるため、安心して最期を迎えられることも家族の支えとなっている。</p>
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人、家族から情報収集を行い、希望・意向の把握につとめている。			◎	日常会話の中で思いや希望を聞くことが多い。利用者の希望でピザを食べに外出したり、カラオケボックスに行き楽しむことができている。正月には絵馬作りを行い「ごはんをいっぱい食べる」「息子に会いに行く」「皆と遊びに行きたい」などそれぞれの思いが書かれていた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の気持ちになり、本人の視点で考えるように努めている。本人の表情やしぐさからも判断する。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時やサービス担当者会の時に離したりしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	介護記録に記入はしているが、思いの整理等はできていないように思う。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の意志を尊重して、利用者本位の介護ができるように心がけている。コミュニケーションを図るようにしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入所前の事前調査や、入所後のアセスメント等で把握するように努めているが、きけていないところもある。			○	入居前に利用者や家族をはじめ、家族をはじめ介護支援専門員や友人から情報収集し、書式に記録している。器用に編物をしたり、エプロンを着用し家事を手伝う姿などがあり、これまでの馴染みの光景をうかがうことができた。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者に向き合い、心身の状態把握、またADLの状況等の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	一緒に生活する中で、状態を観察し、気づきや変化を記録し共有化するようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	体調の変化、便秘、また利用者同士の関わり、職員の声かけ等、不安や不安定の要因の把握に努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の変化を記録に残して、毎日申し送りすることで、職員が把握できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	出来る限り本人の視点で検討するように努めているが、家族、職員の視点が入っている時もある。			◎	計画を立てる際は本人や家族の要望を聞き、職員全員でカンファレンスを行っている。ピザや寿司を食べたいとの要望に職員で計画を立て、レストランや回転寿司に行くなど実行に移している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々のケアの中や、ケアカンファレンスで話し合っている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月のモニタリングで課題を明らかにして、サービス担当者会で話し合っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向に添った内容になるよう、努めている。				本人や家族の要望を聞き、アセスメントを行い、それに基づき介護計画が作成されている。本人の「外に出たい」との希望で、家族と話し合い、まずは体力作りから取り組むよう目標を決め、利用者の身体状況を加味しながら計画を立てている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	サービス担当者会議に本人、家族も参加して、意見や要望等聴いて、日々のケアについて話し合っている。				
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の人の意思表示が読み取りにくい、本人に合った計画になるように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力が得られる場合はあるが、地域の人の協力体制が盛り込まれた内容にはなっていない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容を、介護記録に落とし、把握するようにしている。				介護計画は職員全員が利用者一人ひとりのケア内容が把握しやすいよう、わかりやすい様式になっている。利用者の意向に沿えるよう日々の支援における表情やしぐさも見逃さないよう観察し、言葉など書き残しのないよう記録に残している。利用者の要望に沿った目標に向けてケアの実践に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	ケアプランに添った、具体的記録が出来ていないことがある、				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	個別記録してはいるが、言葉・表情・しぐさ等の具体的内容が掛けている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	記録には実施した事柄のみを記入していることが多い				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	長期1年、短期半年でサービス担当者会を行い、見直しを行っている。				短期目標を6か月、長期目標を12か月を基本に計画が立てられ定期的に見直しを行っている。月1回の業務カンファレンスでは問題点について話し合い、変化があればその都度計画の見直しが行われている。利用者にとってより良い計画となるよう、職員は意見を出し合いながら支援に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行っている				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があった場合は、再アセスメントをとって、プランの見直しを行っている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のカンファレンスで、話し合っている。緊急案件時はその都度会議を開催している。				毎朝、夜勤帯からの申し送りについては、職員が共有できるよう全員で連携している。毎月のケアカンファレンスと業務カンファレンスは職員全員参加により行っており、積極的な意見交換をすることができている。緊急な場合にも同じように会議がとり行われ課題解決に向けて話し合うことができている。参加できない職員は議事録に目を通し、サインをして確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	畳の場で、お互いに活発に意見交換できている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	特別の場合でない限り全員参加が義務づけられていて、公休の職員も時間外で出席している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を残して、全員が確認署名、捺印している。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝夕の申し送り、記録の確認、申し送りノートの活用などで共有している。				職員同士コミュニケーションを図りながら、日々の利用者の会話を尊重しケアに生かせるように努めている。申し送りノートをフルに活用し、情報共有を行っており、伝達の重要性を職員は認識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々の記録又は申し送り等で、職員全員が利用者の状況を把握できるようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	「その日したいこと」を意思表示できる利用者に対しては、叶えられるよう努めているが、できない場合もある。	/	/	/	ピザを食べたいとの要望に応え、利用者も参加し、おやつ作りが行われた。調査日も利用者は笑顔で出迎えてくれ、得意の詩吟を披露してくれた。先立ったご主人の話を楽しそうに話す103歳の利用者に感動した。日頃の職員と利用者のかかわりが良く、利用者の思いを大切に支援しているのが垣間見えた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴や着たい衣服や、食べたいもの等、自己決定できるように、ゆっっくり声かけているが、職員のペースになることもある	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	声かけを常に行うよう努めて、納得されてから、行動するように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	出来るだけ利用者のペースや体調に配慮して支援したいと考えているが、希望に添えない場合もある。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	常に利用者の尊厳を守りつつ、時に方言を交えたり、親しみある、笑顔ある毎日が送れるように、声かけ、支援している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	利用者の表情、目の動き、笑顔等よく観察して、状況を読み取るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	勉強会で人権・尊厳について学ぶ機会を持っているが、常に意識して行動出来ているかは少し不安なところもある。	/	/	○	調査日に歌や踊りを披露してくれた利用者を制止することなく、尊厳に配慮するよう努めている。居室の出入りなどの際は、必ずノックし声かけを行っており、プライバシーの配慮も忘れていない。また法人内の合同研修でも議題に取り上げ、職員全員で勉強し業務に活かせるよう取り組んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	目立たずさりげない行動をしたいが、耳が遠い利用者も多く対応できていないこともある	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	他利用者に見られない様留意し、プライバシーに配慮している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者の部屋に入る時は、声掛けやノックをするよう配慮している	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入社時、個人情報保護に関する誓約書を交わし、情報漏えい防止について理解し、遵守している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	料理や家事など手助けをしてもらっている。教えられることも多くあり、感謝の意を表している。	/	/	/	利用者同士の関係を把握して、トラブルや孤立を未然に防げるよう介入することができ、他利用者に対しても配慮に努めている。手伝いなどの作業に関して、役割を決めることでそれぞれの利用者が自分の力を発揮しながら協力し、良好な関係性を築くことができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が助け合い、協力している。和気あいあいと笑顔で話している時はうれしい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係に配慮して席をきめている。手伝いの分担をして、協力している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士のトラブルは職員が間に入り、他利用者が不安にならないように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	生活歴や、面会に来てくれる人との会話で、把握できているが、全員の人間関係については把握していない。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	情報により分かっていることもあるが、地域との関係等分かってない場合の方が多い。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	外出時に近くをドライブすることなどあるが、知人や友人にこちらから会いに行く事はほとんどない。面会にきてくれる事の方が多い。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	自室や畳の所で会話して、お茶等出して、ゆっくりと過ごしていただいている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	洗濯物干し・ゴミ出し。散歩など、戸外に出られる機会を作っているが、全員ではない。職員の都合に合わせた時間帯だったり、固定している利用者であることもある。	/	/	○	事業所の敷地は広く、散歩や外気浴を楽しんだり、職員と一緒に屋上に洗濯物を干しに行ったりして気持ちよくする利用者もいる。道の駅や買い物に出掛けるなど、できるだけ戸外に出られるよう支援している。新管理者は外出支援を増やしたいと考えている。今後は重度の利用者の外出のも含め日常的な外出支援について話し合い、地域との交流を図ることで事業所が地域にとけ込めることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	できていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	×	できていない	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	外出行事や、家族の介助にて、外出されることはある	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の勉強会の実施、施設外研修への参加等、認知症への理解を深めている	/	/	/	日常生活の中で自分でできる利用者はほとんど自身がしている。職員は任せてはいるが安全に配慮して静かに見守っている。食事もできるだけ自分で食べてもらい見計らって援助している。ピアノを弾く利用者もおり曲や弾く回数などでその日の体調がわかるという。今の心身機能が少しでも継続できるように職員は場面づくりや環境づくりを行っていきたいと考えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	個別のケアプランの中に、運動や、レクリエーション等取り入れて生活リハビリを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	極力本人のできることを最大限に尊重して、見守り、一部介助をするように努めている	/	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日々の生活の中で何をすれば本人の笑顔が見られるか、日々観察し活かせるようにしている	/	/	/	職員と一緒に掃除をしたり、日めくりカレンダーを日課として行ったり洗濯物を畳んだり自然に自分の役割のようになしている。調査日も食べ終わった食器を順々に洗っていく人、朗読する人、編物する人など楽しみや役割を持って生活する様子が見学できた。職員は温かく見守り「ありがとう」の言葉を忘れず交わっていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	重症化した人への取り組みが十分ではない	/	/	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中では支援出来ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	自力で出来る人は本人の意向の身だしなみをしているが、その他の人は、職員が尋ねているが、無関心の方もいて職員の意向が入っている。	/	/	/	朝起きたら寝衣から普段着に着替えるよう支援している。入浴が終わった利用者は自ら鏡の前に立ち、髪をとかし、洋服を整え、引き出しからアクセサリを取り出し身につけていた。帽子をかぶったり、エプロンをつけたりとそれぞれに個性があり、これまでの習慣が感じられる。支援の必要な利用者には好みを把握し、整容の乱れがないよう留意している。		
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	髪型は本人の希望の形に決めてもらっている。持ち物・服装は自己決定出来る人は、好みで整えている。	/	/	/			
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	自己決定出来ない利用者には、基本的に本人が不快でなく清潔なものをこころがけている	/	/	/			
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出時はよそ行きの服を着てもらっているが、年中行事ではできていないことがある。	/	/	/			
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	乱れ・汚れ等は、自尊心を傷付けないよう、声掛け、介助等を行いカバーしている	/	/	/		◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問美容師によるカット・髪染めをしてもらっているが、希望があれば、家族と一緒に臨む店に行かれている	/	/	/		/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	髪型は画一的である。服装は家族が家庭で好まれた物をもってきている	/	/	/		○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	プロセスは理解しているが、買い物には一緒に出していない	/	/	/	料理の下ごしらえや後片付けなど利用者は率先して行っている。職員と利用者はおやつを何にするか話し合いをして作ることが多い。事業所の菜園で取れた野菜が使われたり、家族が取れたてのぶどうを差入れてくれたりして季節の物を味わうことができている。地元で有名な芋炊きも今は恒例となっている。茶碗、箸、コップは使い慣れた物を安心して使っている。利用者の状態に応じ調理法を変えるなど、安全に美味しく食べられるよう配慮されている。当日はどんぶりものであったが利用者は箸で器用に食べており、調査員同士スプーンを使って食べるのが恥ずかしいくらいであった。		
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理の下ごしらえ、味見、後片付け等一緒にしている	/	/	/		◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	手伝うことで、自信、達成感を感じられている	/	/	/		/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	食習慣や、利用者と同じものを食べる事で把握している	/	/	/		/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	出来るだけ旬の食材を使用して、季節の行事に合わせた献立も提供するようにしている	/	/	/		/	◎
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	器は個人のを使用しているが、ミキサー食の人の盛り付けが画一的である	/	/	/		/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた個人のを使用している	/	/	/		/	○
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	見守り、介助の必要な利用者の横に座って、一緒に食べている	/	/	/		/	○
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	対面式のキッチンで、調理のにおいを感じる事が出来る	/	/	/		/	○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事摂取量・水分摂取量を毎日記入している	/	/	/		/	/
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	10時と15時には、水分の提供をしている。本人の好みの飲み物を提供している。	/	/	/		/	/
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立委員会で検討しているが、栄養士のアドバイスまでは受けていない	/	/	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	夕食後は、まな板、包丁を毎日塩素消毒している。食材は、明日使用する食材を、本日配達してもらっている	/	/	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後実施するようにしている	/	/	/	毎食後それぞれが、歯磨きを行っている。歯磨き粉をつけすぎる利用者には納得してもらい職員が管理している。歯磨きやうがいが必要な利用者には口腔清拭をすることで清潔保持に努めている。むせ込み傾向のある利用者は定期的に胸部レントゲン検査を行うなど、誤嚥性肺炎の疑いがないか確認している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に、口腔内の確認をするように努めている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	以前、法人全体で研修を受けたが、専門職のアドバイスは少ない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	見守り対応と介助で支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後口腔ケアを行っている。十分出来ない人は、仕上げ磨きを介助している	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口腔内に異常が見られる時は、歯科受診や往診にて対応している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	オムツ使用が利用者の心身に与えるダメージに対し理解し排泄の自立に向けた支援が出来るように努めている	/	/	/	布パンツやリハビリパンツ、夜間みのポータブルトイレなど、利用者個々の状態に合わせ、トイレでの排泄を基本に支援している。尿取りパッドの使用について、あらかじめ把握の利用者の尿量に合わせて選択し使用している。トイレの便器には背もたれや姿勢保持用具が取り付けられ、利用者の安全確保に配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	原因や影響について理解し、定期的な排便があるように支援している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	経過観察記録に排泄の記録をしてパターン等を把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	安易にオムツを使用するのではなく、トイレに行くことが出来る利用者はトイレでの排泄介助をしている。リハビリパンツと尿取りの組み合わせなど、一人ひとりに合った支援をしている	/	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	看護師に定期的に状態報告を行い職員間で検討することで改善を図っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定時のトイレ誘導に合わせて、個人の状態に合わせて早目の声掛け誘導を行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	家族には理解を求めているが、本人の好み等までは、話しが出来ていないこともある	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	身体状況や認知度等にあわせて、日中・夜間の吸収量の違いパットの種類等使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎回の運動・腹部マッサージ・牛乳を飲むバナナ・さつまいもを食べる等	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	基本的には午前中に入浴してもらっている長さや、温度等本人の好みを聞いている	/	/	◎	週2回の入浴を基本として支援しているが、希望があれば毎日の入浴にも対応できるような体制になっている。入浴にかかる時間や湯温は利用者の好みに合わせるなど配慮し、意向に沿った支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ずつ、ゆっくり入浴してもらっている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で洗身・洗髪出来るところはしてもらって、出来ない所を介助している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声掛けを時間をおいて何回かしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタルをチェックしている入浴後も観察している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者を通じて把握している				日中はできるだけリビングで過ごし、身体を動かしてもらするなど安眠につながるよう日中の過ごし方に注意している。今のところ不眠兆候の利用者はいないが必要に応じ母体法人の病院院長が利用者の身体状況を確認しそれぞれに応じた支援を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中、傾眠傾向にある人はその原因を探り、生活リズムを整えるよう努めている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	不眠時はまず、日中の生活や支援の内容の検討を行い主治医とも相談している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の状態に合わせて、日中も休んでもらっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望する利用者がある時は支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	職員が手紙や電話について声掛け等で促す事は、殆どない年賀状を書ける人は書いてもらっている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	利用を希望する方には提供しているが、希望する人は殆どいない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	手紙や葉書が届いた時は、返信をするように支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	入所時に話をし、家族了解のもと電話をするようにしている。家族からの電話もとりにくい。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	大切さは理解しているが、家族からの預かりにしている。時に、本人の希望で所持している人もいる。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物援助の機会が少ない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物援助の機会が少なく、買い物先との連携はとれていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持して自由に使える利用者が殆どおられないため支援することが出来ないのが実状である。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	話し合いで、施設の方で、預かることが殆どである。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納帳を明確に記載していて、毎月領袖書等郵送している預かり証もわたしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	マッサージの利用やデイサービスの行事への参加等			◎	外出の要望があれば職員で話し合い、臨機応変に対応している。緊急の場合はその都度、家族に利用者の希望や対応法などを説明し了解を得るようにしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	玄関はデイサービスとの共有となっているが、季節の花や飾りをしている。				◎ 季節の花が飾られ、整理整頓されている玄関は、デイサービスとの共有となっており、デイサービスの職員が気持ちよく事業所へのエレベーターに誘導するなどの気持ちの良い対応に努めている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	台所は対面式で料理をしている姿を見ることが出来る。畳の場所がある。				◎	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	朝夕に掃除をしていて、清潔な空間を提供している				◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、季節の食材の献立を出したり等、できるだけ居心地良く暮らせるように努めている				◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	共有スペースに畳の間や、食堂があり、自由に過ごせている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや浴室は、扉で見えない様に隠す事ができる					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れた者・馴染みの物をもってきていただく様に話している。(家族の写真や・仏壇等持ってきている)				○ ベッドやダンス、エアコン、洗面台が備え付けてあるほか、テレビや仏壇等を持ち込んだり、観葉植物、犬の写真などを飾るなど、それぞれにくつろげるよう工夫した部屋づくりになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下の手すり・トイレの手すりがあり、安全に生活できる。肘掛け付き椅子の使用				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	誤解を招くようなものは置いていない					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	いつでも気軽に手にとれるようには、置いていない					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	夜間は防犯上鍵をかけるが、昼間はかけていない自由に面会に来ることが出来る				◎	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵はかけていない					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵はかけていない徘徊する利用者が出た時は、出入り口のチャイムが鳴る					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人ひとりの個人ファイルを作成して、把握している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日の介護記録、経過観察記録に記入している。また夜勤者の申し送りで把握できるようになっている。常に記録に残す様、努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	医療連携が徹底していて、身体状況に変化ある時は、医師看護師等に連絡を取っている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者に問題または体調変化のある場合は主治医に連絡し受診できるようにしている	/	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所時に話し合っ、希望する医師に診てもらっている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果は家族に報告している。結果によっては、話し合いをして、今後どのようにするか相談している。職員の伝達を密にして、共有するようにしている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	施設内での生活等、情報提供書を渡している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	お見舞いに行ったりして、入院状況、今後の方針等医師又は看護師と話し合いをしている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診もあり、病院との連携は常に取れている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	医療連携ナースの訪問があり、相談できている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	夜間の異常時でも常に連絡の出来る体制にある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタルチェックにより、異常時は看護師に連絡して必要に応じて、受診、または往診がある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋を確認して、薬の作用・副作用について理解するように努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個人の薬箱に服薬する薬を日付けをつけていれ、誰が見ても誤薬しないように努めている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬の状態や、副作用がないか等利用者をしっかり観察し変化ある時は、主治医に報告している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	毎週の医療連携看護師の来所時と、定期的な主治医の往診時に、情報提供している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に緊急時の対応について、終末期の対応について書面にて意向を確認しているが、状態変化に応じてその都度意向の確認を話し合っている	/	/	/	看取り指針を定め、入居の際家族に説明している。家族の希望や利用者の状況に合わせ、その都度意向を確認しながら主治医と連携を図るなど、適切な対応ができるよう努めている。現在も看取りの希望は多いため、必要に応じ訪問看護の利用もできるよう配慮されており、家族の安心につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人・家族・職員・主治医等で方針を共有している	/	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	関係機関と協力して、終末期まで介護している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時、終末期に十分説明して、できない時は、病院への入院など、その都度話し合っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に安楽に暮らせるように、話し合い、医療関係者とも密に連絡して、情報を共有して、支援している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族とは常に話し合いを行い、心の支えになれるよう支援している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症のマニュアルの作成、施設内外研修するなどして定期的に学びの機会を作っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策マニュアルの整備は出来ているが、訓練の実施は出来ていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保険所や行政から地域の情報を入手して、早期に対策が取れるよう努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報はすぐに入るようになっており、早期に対応できるよう努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗い、うがいの徹底と、玄関に消毒液・マスクを置いて来訪者からも感染防止に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	家族により、連絡してもなかなか来てくれない方、施設に任せきりの人もいて、関わらない家族もあって、全員ではない				家族会では工作やおやつ作り、ゲーム、カラオケなどを楽しんでいる。事業所前の川原で行われる花火大会の観賞は恒例で家族も心待ちにしている。昼食時に家族の訪問があり、居室でゆっくりと団らんの時間を楽しむ光景が見られ、さり気ない心使いが感じられた。遠方の家族には、毎月行事毎に楽しんでいる様子を新聞で伝えるほか、電話連絡もこまめにとることで情報交換が頻繁にできるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	自室や畳の所で自由に話してもらっている。お茶を必ず出している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	家族会には多くの家族が参加されるが、外出等の参加は少ない			◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、新聞の発行、また受け持ち担当者が、近況を伝える手紙を送付している			◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	サービス担当者会議に出席して頂き、要望や不安等聞いて対応している。面会時にも適宜伺っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	家族と本人が仲良くしていけるよう支援しているが、関係の再構築の支援？どこまでしていくのか解らない				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	職員の異動・退職等についての報告が出来ていない時がある			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会は定期的の実施できているが、他の行事参加・旅行等は出来ていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	起こりうるリスク等は家族に説明して、対応策を検討して理解を得るようにしている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には職員が声かけをして、意見や要望を聞くようにしている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	書面で具体的な説明を行い、理解、納得して頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時の説明において、入院が長引く場合において、退去の可能性等、具体的に説明し、納得して頂くようにして、退去の支援をしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	内訳を文書でもって、具体的に説明して同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階からの地域住民への説明がどこまでされていたかはっきりわからない				地域でのイベントが少なく参加できていないのが現状であるが、地域の清掃活動には積極的に参加する予定である。事業所で行われるイベントには区長を通じ参加呼びかけを行うなど協力をしてもらっている。新管理者は引き続き地域との付き合いを継続し、範囲を広めていきたいと前向きな発言があり、今後に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶はするよう心掛けているが、地域の活動等参加出来ていない			△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の方とのつながりが取れるよう努めている				
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	×	地域の人が気軽に立ち寄られることはあまりない				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	日常の挨拶などの声かけは出来ているが、気軽に立ちよったり等はできていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	地域の住民やボランティアに関わってもらうことはあまりない				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	消防団との避難訓練・保育所との交流など実施している				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	婦人会、消防団の人等交流会を持つ努力はしているが、商店・スーパー・コンビニ、飲食店等との交流はない				
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	2ヶ月に1回開催できている 利用者・家族・地域の人等の参加がある			◎	利用者や家族、区長、後見人の司法書士など多数の参加を得て開催している。会議では利用者の報告、事業所の行事や外部評価などの説明などがあり、意見交換が行われている。骨折や出血時の対応法について、実際に当て木や三角巾の使用法を学ぶなど、講師を招いて勉強会を開催したり、食事会を取り入れ和やかな雰囲気を演出したりと、開催方法に工夫しながら会議を開催している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	時々できている			○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	日程・時間帯・メンバー等の配慮、工夫をしている				
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	利用者第一である法人の方針を基本としている。年間のホームの目標も作成し理念に基づいて実践できるよう努めている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を施設内に掲示(玄関先)しているが、地域の人に分かりやすく伝えきれていない				
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	習熟度に合わせた研修に参加出来ている				シフトは職員の希望に配慮し、緊急時も職員同士がカバーし合う協力体制が築けている。親睦の意味での懇親会を開催するなど、良好な関係が築けるよう交流が図れる機会を作っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	資格取得の支援				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	時間外支給・賞与・本人の努力により昇進の機会がある				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県・大洲市のGH連絡会への加入参加				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	管理者会議での話し合い、忘年会の補助			◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で学んだことを実践するように努めている 虐待の無い施設づくりをめざしている				不適切な言動には細心の注意を払うよう職員全員が理解しており、職員同士お互い言い合える関係が築けている。年1回は職員が虐待についての研修に参加し、職員全員が共通認識を持てるようスキルアップの向上に取り組んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者に内出血等見られた場合、職員間で原因を話しあったり、申し送り時や、気が付いたときに出勤者で話している				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者の身体面、精神面に注意し、虐待が起こらないよう細心の注意を払っている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員の体調不良等見られる場合は、勤務交替したり、利用者への声かけや、身体介護の仕方等に気をつけている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	全ての職員が身体拘束について、正しく理解できるよう施設内外の研修にて学ぶ機会を作っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	日常生活の中で現状にあわせて、点検を行いカンファレンス等で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族に具体的内容を示し話し合いを行い理解を得るように努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	全ての職員が制度について理解は出来ていない。研修に参加して、勉強会をする予定	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	入所時からすでに制度を利用している利用者が多い、パンフレットで情報提供等は出来ていない	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	制度を利用している利用者さん担当の司法書士さんとの連携はとれている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応マニュアルは作成しているが、全員周知出来ているか分からないところがある	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	年1回消防署による救急救命講習をうけて、実践力がつくように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書、ヒヤリハットを詳しく記入して、随時カンファレンス等で検討して、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりの特徴を理解しており、事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルを作成しているが、対応方法の検討はあまりしていない	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情発生時には速やかに対応していて、必要時は市に相談報告している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合、職員間で話し合い検討して、サービス改善への経過や結果を伝え良い関係になるよう努めている	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や、日常の中で話を聞く機会を持つ	/	/	○	利用者からの要望等は日常会話の中で把握し、家族の意見や要望等は面会時や運営推進会議で伝えられる機会を作っている。運営推進会議では職員の異動報告なども行い理解を得られるよう努めている。1年の締めくくりとして利用者に来年の抱負を語ってもらい、和気あいあいとした忘年会を開催している。管理者は職員から意見や要望等を聞く機会を設けているが、運営へ反省するまでに至っていないので今後の課題として活かして欲しい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議・家族会。面会時等個別に聞く機会はある	/	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	家族会等で話してもいるが、情報提供を適宜は行っていない	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	往診に来られた時に、話が出ることもある	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	運営についてまでの検討はできていない	/	/	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回は、自己評価している	/	/	/	自己評価や外部評価録は玄関先に置き、誰でも閲覧できるようになっている。運営推進会議で報告し達成や反省などを話し合っている。また年間目標を発表し事業所全体の取り組み姿勢を理解してもらうよう努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を活かすようにつとめている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	取り組むように努力している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告はしているが、モニター依頼はしていない	/	/	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取り組みに向けた成果の確認は不十分	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成しているが、全員が周知しているか不安	/	/	/	年2回消防署立ち合いのもとに避難訓練を行い、夜間想定でも実施している。避難訓練は区長や地元消防団の協力を得ている。年1回救命講習会に参加し、災害への備えとして意識向上につなげている。今後も地域住民との交流を図り、協力体制を整えたいと管理者は考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	夜間想定での避難訓練を行ったが、他の災害の訓練はまだ不十分	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	南予防災の点検がある	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	消防署とは連携できているが、地域住民とは合同訓練は出来ていない	/	/	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の災害対策には取り組めていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けての情報発信、啓発活動等には取り組めていないのが現状である	/	/	/	中学生や高校生の見学、体験学習や学生に認知症ケアの啓発活動に取り組んでいる。今後は地域活動を通じて関係を深めながら、高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援ができる場所としての活動や、一層の充実に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	行えていない	/	/	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所の開放、活用は出来ていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	介護人材センターからの実習生の受け入れや高校生のワークキャンプの受け入れに協力している	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の清掃に参加 中学生の福祉交流体験の受け入れ	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年9月12日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	13名	(依頼数)
地域アンケート回答数	3名		

※事業所記入

事業所番号	3890700028
事業所名	グループホーム龍星
(ユニット名)	4階
記入者(管理者)	
氏名	後藤 玲子
自己評価作成日	29 年 8 月 10 日

<p>【事業所理念】 1.入居者個々の残存能力を生かしその人らしい生活が出来るように支援する。 1.入居者が自信と生きがいを持って生活できるよう計画を立てる。 1.一人一人尊重し楽しい共同生活を送れるよう、家庭としての環境を整える。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①「あったかいホームを作る」にあたって、職員が「行ってきます」「ただいま」と言うと利用者様から「行ってらっしゃい」「おかえり」と言って頂く事が多くなり職員の祖父母、両親のような関わりが少しずつ出来ておりホームが家庭の延長ようになってきてとても温かいホームになっている。②「地域交流の促進を図る」にあたって、行事として地域交流会を行い地域の婦人会の方と一緒に食事作りを行ったり笑いヨガを行ったりと地域の方と一緒に行事を行う機会を増やす事が出来た。夜間想定避難訓練で利用者様全員の避難誘導を行い、地域の方や地域の消防団の方に協力していただき、災害時には地域の方々の大切さがとても重要だと気付く事が出来ました。 ・職員一人ひとりがホームを清潔に保つ事に気をつけて朝と夕に限らず毎食後もフロアやキッチンの掃き掃除と拭き掃除を行っている。そして、手があいた職員は気になる場所の掃除等を自主的に行っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 富士山・臥龍山荘に近い自然豊かな場所にある事業所の前には肱川が流れており、毎年、大洲水天宮花火が恒例行事となっている。管理者はじめ職員は利用者本位に過ごしてほしいと願い、できることはしてもらうという方針で支援している。利用者はそれぞれに楽しみや役割をもちのびのびと過ごすことができおり、しっかり反映されている。管理者と職員は良好な信頼関係が築かれ、同じ方向性のもと利用者の支援に取り組んでいる。母体が診療所であるため、安心して最期を迎えられることも家族の支えとなっている。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	プラン作成時本人家族様に意向を伺っている	/	/	◎	日常会話の中で思いや希望を聞くことが多い。利用者の希望でピザを食べに外出したり、カラオケボックスに行き楽しむことができている。正月には絵馬作りを行い「ごはんをいっぱい食べる」「息子に会いに行く」「皆と遊びに行きたい」などそれぞれの思いが書かれていた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	意思疎通が出来ない場合は本人の視点で検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時・電話にて本人の話し合いを行っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプランやアセスメントで書類に残している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ケアカンファレンスを行い意見を交換している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居の際契約時、事前調査等で本人や家族から話をきいている	/	/	○	入居前に利用者や家族をはじめ、家族をはじめ介護支援専門員や友人から情報収集し、書式に記録している。器用に編物をしたり、エプロンを着用し家事を手伝う姿などがあり、これまでの馴染みの光景をうかがうことができた。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の出来る事を見極めてプランに反映し日々努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々共に生活する中で職員同士観察して話あっている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎月カンファレンスを開き一人ひとりについて話あっている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	本人の希望を優先して自由に居室やフロアで過ごして頂いている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の意向を踏まえたアセスメントを行っている	/	/	◎	計画を立てる際は本人や家族の要望を聞き、職員全員でカンファレンスを行っている。ピザや寿司を食べたいとの要望に職員で計画を立て、レストランや回転寿司に行くなど実行に移している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアカンファレンスに家族様にも参加して頂き意見を取り入れている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ケアカンファレンスの話し合いで問題点をあげてプランに生かしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	サービス担当者会議で本人にも参加していただきプランに生かしている				本人や家族の要望を聞き、アセスメントを行い、それに基づき介護計画が作成されている。本人の「外に出たい」との希望で、家族と話し合い、まずは体力作りから取り組むよう目標を決め、利用者の身体状況を加味しながら計画を立てている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族様の希望を電話や面会時に聞いて、会議にも参加して頂いている				
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度の方については慣れ親しんだ暮らしは十分に出来ていない				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方との協力体制には至っていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画は全職員が把握して理解している				介護計画は職員全員が利用者一人ひとりのケア内容が把握しやすいよう、わかりやすい様式になっている。利用者の意向に沿えるよう日々の支援における表情やしぐさも見逃さないよう観察し、言葉など書き残しのないよう記録に残している。利用者の要望に沿った目標に向けてケアの実践に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月記録を残して次回の介護計画につなげている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者一人ひとりの様子を具体的に記載できている				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の工夫・アイデア等は個別には記録していない。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	期間を把握して見直しを行っている				短期目標を6か月、長期目標を12か月を基本に計画が立てられ定期的に見直しを行っている。月1回の業務カンファレンスでは問題点について話し合い、変化があればその都度計画の見直しが行われている。利用者にとってより良い計画となるよう、職員は意見を出し合いながら支援に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月ケアカンファレンスで話し合いを行っている				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態変化した場合はその都度家族に連絡しケアプランを作成している				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	臨時ケアカンファレンスを開いている				毎朝、夜勤帯からの申し送りについては、職員が共有できるよう全員で連携している。毎月のケアカンファレンスと業務カンファレンスは職員全員参加により行っており、積極的な意見交換をすることができている。緊急な場合にも同じように会議がとり行われ課題解決に向けて話し合うことができている。参加できない職員は議事録に目を通し、サインをして確認している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員同士が話しやすく意見が言い合える関係を築いている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全職員参加している				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容は記録に残して参加できなかった職員が見れるようにしている				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに全職員に伝えなければいけない事は記載している				職員同士コミュニケーションを図りながら、日々の利用者の会話を尊重しケアに生かせるように努めている。申し送りノートをフルに活用し、情報共有を行っており、伝達の重要性を職員は認識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	出勤したら必ず申し送りノートを読み業務日誌も読み勤務をしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	出来る限り本人の希望に添った対応をしている	/	/	/	<p>ピザを食べたいとの要望に応え、利用者も参加し、おやつ作りが行われた。調査日も利用者は笑顔で出迎えてくれ、得意の詩吟を披露してくれたり、先立ったご主人の話を楽しそうに話す103歳の利用者に感動した。日頃の職員と利用者のかかわりが良く、利用者の思いを大切に支援しているのが垣間見えた。</p>
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	おやつの際食べたいお菓子を選んで頂く機会を増やしている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	着たい服を選んでもらったり自分のペースで暮らして頂いている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	朝起きる時間から寝る時間まで本人のペースを把握し大切にしている	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	空いた時間は職員が隣に付き添い声かけを行い活き活きとして生活していただけるように努めている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が難しくても声かけを行ったり身振り手振りでコミュニケーションしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	全職員意識して行う事ができている	/	/	○	<p>調査日に歌や踊りを披露してくれた利用者を制止することなく、尊厳に配慮するよう努めている。居室の出入りなどの際は、必ずノックし声かけを行っており、プライバシーの配慮も忘れていない。また法人内の合同研修でも議題に取り上げ、職員全員で勉強し業務に活かせるよう取り組んでいる。</p>
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	他者の前で声かけを行っている場合もあった	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	排泄時に扉を開けっ放しにしている時もみられた	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ベットの上に置いてあるものは元あった場所に戻すなど配慮している	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	十分に理解している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	「ありがとう」が言い合える関係性を築けている	/	/	/	<p>利用者同士の関係を把握して、トラブルや孤立を未然に防げるよう介入することができ、他利用者に対しても配慮に努めている。手伝いなどの作業に関して、役割を決めることでそれぞれの利用者が自分の力を発揮しながら協力し、良好な関係性を築くことができている。</p>
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解し他者とのきかけ作りを支援してる	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の相性を把握しトラブルがないよう配慮を行っている	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになった場合は仲介に入っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	昔の事は事前調査や契約時に聞く程度で十分ではない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	すべては把握していない事が多く今後努めていく	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所にはあまりいく事ができていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	気軽に訪れて頂けることは出来ていない	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	毎日屋上や屋外へ行き気分転換を図り職員が外出時はドライブへ行っている	/	/	○	事業所の敷地は広く、散歩や外気浴を楽しんだり、職員と一緒に屋上に洗濯物を干しに行ったりして気晴らしする利用者もいる。道の駅や買い物に出掛けるなど、できるだけ戸外に出られるよう支援している。新管理者は外出支援を増やしたいと考えている。今後は重度の利用者の外出のも含め日常的な外出支援について話し合い、地域との交流を図ることで事業所が地域にとけ込めることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の方の協力は得ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子の方の外出も2名ずつ程度で行っている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族さんの協力は少しあるが地域の方の協力は無い。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会や研修に参加し職員全員理解して行っている	/	/	/	日常生活の中で自分でできる利用者はほとんど自身がしている。職員は任せてはいるが安全に配慮して静かに見守っている。食事もできるだけ自分で食べてもらい見計らって援助している。ピアノを弾く利用者もおり曲や弾く回数などでその日の体調がわかるという。今の心身機能が少しでも継続できるように職員は場面づくりや環境づくりを行っていきたいと考えている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	勉強会を開いて職員一人ひとり学び日々の観察に重視している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	残存能力を生かして本人が出来る事はして頂くようにしている	/	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人がやりたいことや好きなことを聞き出して毎日の日課に取り入れている	/	/	/	職員と一緒に掃除をしたり、日めくりカレンダーを日課として行ったり洗濯物を畳んだり自然に自分の役割のようになしている。調査日も食べ終わった食器を順々に洗っていく人、朗読する人、編物する人など楽しみや役割を持って生活する様子が見学できた。職員は温かく見守り「ありがとう」の言葉を忘れず交わっていた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	認知レベルを踏まえながら出来る事楽しみな事を支援している	/	/	/	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との交流はできていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好み・おしゃれを重視している	/	/	/	朝起きたら寝衣から普段着に着替えるよう支援している。入浴が終わった利用者は自ら鏡の前に立ち、髪をとかし、洋服を整え、引き出しからアクセサリを取り出し身につけていた。帽子をかぶったり、エプロンをつけたりとそれぞれに個性があり、これまでの習慣が感じられる。支援の必要な利用者には好みを把握し、整容の乱れがないよう留意している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	髪型など自分がしたい髪型にされたりと個性を生かしている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	髪型の分け目はなど自分で決定されてヘアピン等もつけている	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	生活の彩りにあせるまでは出来ていない	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	少ししか汚れていない場合は着替えは出来ていない時も多い	/	/	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	望むところには行けれおらず出張美容室に来てもらっている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎朝整容・洗面をおこなっている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	食事についての勉強会等を行い理解する必要がある	/	/	/	料理の下ごしらえや後片付けなど利用者は率先して行っている。職員と利用者はおやつを何にするか話し合いをして作ることが多い。事業所の菜園で取れた野菜が使われたり、家族が取れたてのぶどうを差入れてくれたりして季節の物を味わうことができている。地元で有名な芋炊きも今は恒例となっている。茶碗、箸、コップは使い慣れた物を安心して使っている。利用者の状態に応じ調理法を変えるなど、安全に美味しく食べられるよう配慮されている。当日はどんぶりものであったが利用者は箸で器用に食べており、調査員同士スプーンを使って食べるのが恥ずかしいくらいであった。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	本人が出来る事は協力して頂き食事作りをしている	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	手伝って頂いたあとは感謝する事で自信に繋げている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご家族や本人からうかがっている	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の食材を使用し料理を作り初物を喜んで頂いている	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	ミキサー食の方でも食欲が出るように工夫して提供している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	本人が使いやすい合ったものを使用している	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者さんの横に付き職員も一緒に食べながら声かけが出来ている	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今日の献立を口頭で伝えて食欲が沸くように雰囲気作りを大切にしている	/	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	水分摂取量の把握を行っている体重に合わせて量も調節している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分量は毎時間記載し一日に必要な水分量を摂取して頂いている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立委員が毎月会議を行いバランスの良い献立を考えている	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	夕食後調理用具を消毒しその日に注文した食材を使用している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会や研修に行き自分なりに理解している	/	/	/	毎食後それぞれが、歯磨きを行っている。歯磨き粉をつけすぎる利用者には納得してもらい職員が管理している。歯磨きやうがいが必要な利用者には口腔清拭をすることで清潔保持に努めている。むせ込み傾向のある利用者は定期的に胸部レントゲン検査を行うなど、誤嚥性肺炎の疑いがないか確認している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	虫歯や舌の状態までは把握していない。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	全く出来ない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	職員が付き添い支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来るところは自分でした頂き最後の仕上げは職員が行っている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	問題点があれば家族さんに連絡して受診して頂いている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解が不十分である	/	/	/	布パンツやリハビリパンツ、夜間みのポータブルトイレなど、利用者個々の状態に合わせ、トイレでの排泄を基本に支援している。尿取りパッドの使用について、あらかじめ把握の利用者の尿量に合わせて選択し使用している。トイレの便器には背もたれや姿勢保持用具が取り付けられ、利用者の安全確保に配慮している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘の利用者さんにはセンナ茶や下剤で対応している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表を作りその都度記載している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄を基本とし一人ひとり適切なパンツの着用を支援している	/	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	カンファレンスの際に検討して話し合っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりのペースがあり間隔を把握して声かけを行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご家族と相談しながらおむつの検討をしている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人にあったパットやおむつを把握して使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日のリハビリ運動やトイレでのマッサージを行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	時間帯は職員の都合で決めている事が多い。週2回は入浴している	/	/	◎	週2回の入浴を基本として支援しているが、希望があれば毎日の入浴にも対応できるような体制になっている。入浴にかかる時間や湯温は利用者の好みに合わせるなど配慮し、意向に沿った支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ひとりが自分のペースで気持ちよく入浴できるように支援している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗えるところは洗って頂きしっかり見守りと声かけを行っている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否が強い利用者様には無理に勧めるのではなく時間をおいて声かけをしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にはバイタル測定を行い入浴の際も身体観察を行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	何時に就寝し起床するのか本人のパターンを理解している	/	/	/	日中はできるだけリビングで過ごし、身体を動かしてもらうなど安眠につながるよう日中の過ごし方に注意している。今のところ不眠兆候の利用者はいないが必要に応じ母体法人の病院院長が利用者の身体状況を確認しそれぞれに応じた支援を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない方には本人の希望に寄り添えるように工夫している	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	Drの指示により全く休まれない方には眠前薬の処方を行っている	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	毎日本人の希望の際や昼食後などは居室で休んで頂いている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者様の希望時には職員に声をかけてもらい電話をされている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状等担当職員と一緒に本人さんにも一言書いて頂いている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	利用者様の希望時にその都度電話を家族さんに繋ぎお話をしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	息子さんと娘さんから届いた手紙には本人に返事を書いて頂いている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	サービス担当者会議の際に希望の際にお電話をして良いか許可をとっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解をしている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	職員が出かける際にドライブも兼ねて一緒に行き必要な物を買っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	おこづかい管理が管理しているが企画等で外出の際お金を使えるように支援している	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	自分で所持したり好きな時に使えるようには出来ていない	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	出来ていない	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	おこづかい帳をその都度つけており、何に使ったか等家族に報告している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	一人ひとりのニーズにあった柔軟なサービス内容を検討している	/	/	◎ 外出の要望があれば職員で話し合い、臨機応変に対応している。緊急の場合はその都度、家族に利用者の希望や対応法などを説明し了解を得るようにしている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	季節の花を飾ったり近隣の催し物のポスターを飾ったりと親しみやすくしている				◎ 季節の花が飾られ、整理整頓されている玄関は、デイサービスとの共有となっており、デイサービスの職員が気持ちよく事業所へのエレベーターに誘導するなどの気持ちの良い対応に努めている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	毎月壁画を作成し季節感を取り入れ家庭的な雰囲気を大切にしている				◎ 教養空間は大きな窓に囲まれ、陽光がたっぷり差し込み気持ち良く、窓からは山の緑や肱川などを眺めることができる。毎年恒例の水天宮花火大会の際には、家族や地域住民と一緒に観賞し喜ばれている。広い畳コーナーは、イベントや訪問する保育園児の活躍の場として活用されている。年間目標に掲げている通り、こまめに清掃が行き届いた静かな環境の中、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日早出が廊下居室フロアトイレ隅々まで掃除を行っている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	自宅ですべてのものを自室に取り入れ居心地よい空間作りをしている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	個室があり自分のペースで過ごしていただいている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	フロアからは見えないようになっている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家族さんに本人さんが使っていたもの等を持ってきてもらっている				○ ベッドやタンス、エアコン、洗面台が備え付けてあるほか、テレビや仏壇等を持ち込んだり、観葉植物、犬の写真などを飾るなど、それぞれにくつろげるよう工夫した部屋づくりになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者様のできる事などを把握して自立した生活が出来るように支援している				◎ 廊下は回廊式となっており、周囲には手すりが設置され安心して歩行ができるよう留意している。台所は利用者の様子が見えやすい対面キッチンや、利用者が洗い物などができやすいような流し台のサイズになっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認知間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者様の認知レベルを理解した上で物品の配置などは配慮している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	毎朝掃除をする方の部屋には掃除道具を置いている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中・夜間ともユニットの出入り口は施錠は行っていない				◎ 各ユニットの出入り口には安全に配慮してチャイム音を取り付けている。各階ユニットに移動する場合は職員が付き添うよう心がけている。玄関には施錠されておらず、デイサービス職員も協力しながら利用者を見守っている。鍵をかけることの弊害を業務カンファレンスなどで振り返り、職員間の共通認識を図っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	契約の際に話を聞いて理解していただいている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関の戸を開けたら音が鳴るように工夫している				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や今までの病歴は個人ファイルに記録している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝バイタル測定を行い記録している異常の際はDrへ報告をしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常があればすぐに医療連携NsやDrへ報告し指示をいただいている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご家族やご本人の意向を優先して支援している	/	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	利用者様とかかりつけ医師との関係を大切にしている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	病院を受診後は家族には連絡を行い状況を説明している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	ご本人の心身状況は医師や看護師に説明し情報を提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院後も職員がお見舞いに行き看護師やDrと話し合い情報交換している	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診や医療連携や往診の際病院関係者との関係性を大切にしている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	週に1回医療連携Nsが訪問し往診を行い日々の気づきをその都度相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	Drや医療連携Nsに24時間相談できる体制である。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態に異常がある場合は指示を仰ぎすぐ受診を行える体制が整っている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個人ファイルに現在飲んでる薬の処方箋を保管してある	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬介助の役割を決めており誤薬防止に努めている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬や薬が変更になった場合は副作用がないか観察を行っている	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬後の状態等を記録に残して看護師や医師に相談している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に終末期の方針について同意書をいただいている	/	/	/	看取り指針を定め、入居の際家族に説明している。家族の希望や利用者の状況に合わせ、その都度意向を確認しながら主治医と連携を図るなど、適切な対応ができるよう努めている。現在も看取りの希望は多いため、必要に応じ訪問看護の利用もできるよう配慮されており、家族の安心につながっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	Drや看護師とも終末期の方針については話し合い共有している	/	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者ではないのでわからない	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	ご家族には医療行為が出来ない事等十分説明を行っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	訪問看護師に日々の状態に報告を行いながら今後の検討を行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	×	あまり出来ていない	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会や研修に参加してカンファレンスで報告を行っている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアル等はあるが訓練は行ったことがない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所から連絡がくるようになっており最新情報を把握できている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報が入ってくる為感染拡大防止に努めている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	利用者自ら外に出て帰ってきたらうがいをされたりと徹底している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者様を家族と思い接し「ただいま」「おかえり」と言い合っている				家族会では工作やおやつ作り、ゲーム、カラオケなどを楽しんでいる。事業所前の川原で行われる花火大会の観賞は恒例で家族も心待ちにしている。昼食時に家族の訪問があり、居室でゆっくりと団らんの時間を楽しむ光景が見られ、さり気ない心使いが感じられた。遠方の家族には、毎月行事毎に楽しんでいる様子を新聞で伝えるほか、電話連絡もこまめにとることで情報交換が頻繁にできるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様には何でも気軽に電話で伝えあい居心地がよいホーム作りをしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会を年2回行ったり、誕生日会に参加して頂くように声かけを行っている			◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族さんに利用者様の様子やどんな事をしたか報告して具体的に伝えている			◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族さんが面会時や電話で心配されている事をその都度答えている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族様と利用者様が今まで通りの関係性を築けるように支援している				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新聞等や面会の際に異動がある場合は伝えて理解してもらっている			○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	毎年家族会を行って交流できている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	面会時等に気づいた事を伝えたり会議に参加して頂き対策を話している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会の際や電話で積極的なやりとりを行い良い関係性を築けている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約内容の変更の際やその都度ご家族様に同意書を書いて頂いている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所については入所の契約の際にご家族様に説明を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時にはご家族様にご連絡し説明を行い面会時に同意を頂いている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議の際に地域の方に説明を行い理解をして頂いている	/	/	/	地域でのイベントが少なく参加できていないのが現状であるが、地域の清掃活動には積極的に参加する予定である。事業所で行われるイベントには区長を通じ参加呼びかけを行うなど協力してもらっている。新管理者は引き続き地域との付き合いを継続し、範囲を広めていきたいと前向きな発言があり、今後に期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域での奉仕活動に参加を行ったり地域の方と一緒に食事会を行っている	/	/	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の方々との交流も増えてきておりよい関係を築けている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほとんど出来ていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	ほとんど出来ていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	あまり出来ているとはいえない為今後働きかけを行っていききたい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	出来ていないため今後力を入れていきたい	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の方々と地域の消防団の方々に避難訓練に参加して頂いている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	2か月に1回必ず行っており利用者様のご家族様や地域の方に参加頂いている	/	/	◎	利用者や家族、区長、後見人の司法書士など多数の参加を得て開催している。会議では利用者の報告、事業所の行事や外部評価などの説明などがあり、意見交換が行われている。骨折や出血時の対応法について、実際に当て木や三角巾の使用法を学ぶなど、講師を招いて勉強会を開催したり、食事会を取り入れ和やかな雰囲気を演出したりと、開催方法に工夫しながら会議を開催している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価のしくみや内容、目標達成計画の内容について報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	意見や提案をカンファレンスで全職員に伝えているが結果は報告はしていない	/	/	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマごとではメンバーは選んでいないが出席しやすい日を選んでいる	/	/	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	入口の玄関のところに家族様やお客様が見れるように公表している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念を作り玄関に提示しており職員一人一人日々仕事に取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に提示している為利用者様や家族様地域の方にも理解して頂いている	/	/	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	常勤が年3回、パートが年2回の研修に参加し報告している	/	/	/	シフトは職員の希望に配慮し、緊急時も職員同士がカバーし合う協力体制が築けている。親睦の意味での懇親会を開催するなど、良好な関係が築けるよう交流が図れる機会を作っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	○	管理者ではないのでわからない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員がチームとなり協力しながら意見を言い合えるホームを作っている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	勉強会や研修に参加をしているがそれからの取り組みは出来ていない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	明るくお互い何でも言い合える雰囲気作りを行い出来ている	/	/	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	マニュアルも作成し施設内で勉強会も行い理解している	/	/	/	不適切な言動には細心の注意を払うよう職員全員が理解しており、職員同士お互い言い合える関係が築けている。年1回は職員が虐待についての研修に参加し、職員全員が共通認識を持てるようスキルアップの向上に取り組んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	カンファレンス等で意見交換しながらゆっくり話す場を作っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアル作成をしている為全職員目を通して理解している	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員同士でお互いの声かけや態度に注意し合っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	分かっていない職員もいる為マニュアルで理解して頂きたい	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	その都度拘束にならないケアをカンファレンスで話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族様から拘束や施錠の要望はない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	成年後見制度などへの理解は全職員は出来ていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない為今後努めていきたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	権利擁護を受けている利用者様がおられる為連携体制は出来ている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	救命講習を年に1回行い全職員理解しマニュアルも作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	全職員救命講習に参加して救命士から指導をして頂いている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がりそうな事をヒヤリハットに記載して全職員目を通して				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスで全利用者について話し合い気になる事を検討している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情マニュアル作成し全職員目を通して				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられる事がほとんどない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられる事がほとんどない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	意見や要望は職員が聞くが苦情を伝えられる機会はない			○	利用者からの要望等は日常会話の中で把握し、家族の意見や要望等は面会時や運営推進会議で伝えられる機会を作っている。運営推進会議では職員の異動報告なども行い理解を得られるよう努めている。1年の締めくくりとして利用者に来年の抱負を語ってもらい、和気あいあいとした忘年会を開催している。管理者は職員から意見や要望等を聞く機会を設けているが、運営へ反省するまでに至っていないので今後の課題として活かして欲しい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	玄関に意見箱を設置し言いやすい環境作りをしている			◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	ほとんど出来ていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	職員の不満や意見はその都度聞いて管理者に伝えている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。		管理者ではないのでわからない。			△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	1年に1回全職員に自己評価してもらい取り組んでいる				自己評価や外部評価録は玄関先に置き、誰でも閲覧できるようになっている。運営推進会議で報告し達成や反省などを話し合っている。また年間目標を発表し事業所全体の取り組む姿勢を理解してもらうよう努めている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	学習の機会としては活かせてないので今後努めたい				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	しっかりと出来ている				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議の構成員さんや家族さんには報告して行っている			○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画を発表して成果は発表している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成し全職員目を通している				年2回消防署立ち合いのもとに避難訓練を行い、夜間想定でも実施している。避難訓練は区長や地元消防団の協力を得ている。年1回救命講習会に参加し、災害への備えとして意識向上につなげている。今後も地域住民との交流を図り、協力体制を整えたいと管理者は考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間・日中の避難訓練を2か月に1回は行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	非常食や備品はあるが点検は行っていない				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域の方にも避難訓練に参加して頂き連携を図り出来ている			○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域で行われている防災訓練にも参加していきたい				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていない				中学生や高校生の見学、体験学習や学生に認知症ケアの啓発活動に取り組んでいる。今後は地域活動を通じて関係を深めながら、高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援ができる場所としての活動や、一層の充実に期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	出来ていない			△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域の婦人会や消防団の方との食事会を行っている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生のボランティアの方に来て頂く機会を作ったりしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	出来ていない			○	